

受け継いだへべすを世に広めたい



市内でへべす生産を営まれている黒木 照久さんをご紹介します。
 昭和46年千葉県千葉市生まれ。千葉で通信会社に勤務した後、父から農業を継ぐことになり、令和2年4月に日向市へ移住と同時に農業を始めました。
 幼少期から日向を訪れるたびに、祖父の背中を見て農業への憧れを抱いておりました。現在の住まいと農地は曾祖父が開墾を行い、祖父がへべす黎明期から栽培を始め、父がそれを受け継ぎ、自分に託されました。先祖代々が大切に育ててきたものを守っていききたいという気持ちからへべす農家になりました。

特に苦労したのは、農業を始めて1年目に農業を教えていた父の認知症と膠原病が進行し、一緒に農業が出来なくなったことです。父は病の身体をおして痛みに耐えながら、秋口に露地の剪定の仕方を見せた後、作業が出来なくなりました。気力を振り絞って最後の引継ぎをしたのだと思います。また、1匹のカミキリムシが原因で、祖父の代から育てていた樹齢30年以上のへべすの木が枯れた時は、実害よりも精神的にショックを受けました。

しかし、へべすを広めるためのホームページやロゴの作成してくれた方、樹勢維持を教えてくれた方、他県から様々なへべす料理を作って写真を送ってくれる友人たちなど、たくさんの方々の協力と祖父の代から残してきたものを守っていききたいという想いで何度も乗り越えられたと思います。

「良い実は良い葉から 良い葉は良い土から」ということで、土の改良はもちろんですが、蕾が一番近い葉に肥料を葉面散布(葉にも肥料を与える手法)や防除を行い、健康な葉を維持するために努力・工夫をしています。

また、自宅の庭から農地が広がっている環境のため、常日頃へべすの状態を確認しています。



ハウス栽培のへべすをより大きくするため、現在土の改良を試行錯誤しているところです。また、より安全安心なへべすづくりを目指して、有機栽培に取り組んでいきたいと考えています。そのために、生産量の拡大や有機栽培などの試験のための圃場が拡大できればと考えており、ビニールハウス付きの農地があれば、ぜひとも購入したいと思います。試してみたいことをやりながら、へべすの存在をもっと広く知っていただけるように日々精進していきます。